

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生のための社会調査・研究および社会心理実験スペースを増設する	→社会調査・研究スペースの新設、社会心理実験スペースの新設	C	C	B		
2. すべての大人数講義に、TA・LA・SAなどの授業補助者を導入する制度を検討し、全学的に提案する	→TA・LA・SA制度の再構築に向けた提案	C	B	B		
3. 共同研究室の機能を学部教育中心に再構築する	→学部学生における共同研究室の認知および利用者数の向上	C	C	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	社会学部本館建替計画では、社会調査・研究スペース(リサーチルーム)と社会心理実験スペースを確保しており、現在は2期工事の実施段階である。リサーチルームの活用方法については、学部学習・教育支援検討(第2期)ワーキンググループで検討している。
目標2	学長府の「2011年度教育活性化資金」を活用して、社会学部開講大人数講義科目へ配置し、講義授業のライブ性・双方向性の価値を高めることを目的として、社会学部ラーニング・アシスタント(S. L. A./School of Sociology Learning Assistant)(授業運営補助)事業を行った。2011年度秋学期に、24科目に対して24名のSLA(授業運営補助)を配置した。
目標3	社会学部本館建替後の新・共同研究室の機能、および同室を中心に展開する学習・教育支援のあり方について、学部学習・教育支援検討ワーキンググループにおいて検討を推進しており、第1期のワーキンググループの答申に基づいて共同研究室の基本設計等を進められており、第2期のワーキンググループは、その具体化を実現するための作業を現在進めている。
備考	

☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	23	19	18	18	21	他に、社会福祉実習助手4 (2005、2006、2007年度) COE研究補佐3 (2005、2006年度)
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	3	3	3	3	2	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.6	13.1	12.4	13.8	13.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	15.1	11.5	11.5	13.6	13.3	
		講師	時間	-	8.0	-	-	-	
		助教	時間	-	8.8	8.6	11.4	6.9	